

# 令和元(2019)年度 事業報告

公益財団法人 栃木県農業振興公社

# 令和元(2019)年度公益財団法人栃木県農業振興公社事業報告書

本県農業の更なる発展と農村地域の振興を図るため、公益法人としての幅広いネットワークと多彩なノウハウを活かし、農業者はもとより消費者や国、県及び関係機関・団体と協力しながら「令和元(2019)年度事業体系」に掲げた各種事業を実施した。

農地中間管理事業については、改正農地バンク法による運用の見直しを行い、更なる事業推進のため関係機関との連携強化を図った。

また、畜産・農用地等基盤整備事業では生産性の高い経営体の育成等畜産の安定的な発展を図るための施設等を整備した。

さらに、就農希望者や青年農業者に対する農業後継者育成確保事業やとちぎの豊かな食と農を理解促進する事業、6次産業化や中山間地域における農地保全活動など農業農村の活力向上支援事業を実施した。

一方、県の指定管理施設である「とちぎ花センター」では、県産花きのPRや飾花、生産者と連携した消費者との交流イベントの開催などを通して、県産花きの普及・振興に努めた。「なかがわ水遊園」では、ニーズを反映した企画展の開催や周辺自治体・団体との連携事業を開催するなど魅力ある施設の運営に努めた。

## ○ 令和元(2019)年度事業体系



# 公益目的事業 1

## I 農地集積推進事業

農用地等の利用の効率化及び高度化を促進するため、県、市町、農業委員会及び農地利用集積円滑化団体等との連携の下に、社会・経済情勢の変化や農用地移動の動向等に即しつつ農地中間管理事業及び農地売買等事業を実施した。

### 1 農地中間管理事業（公1・1 農地利用集積に関する事業）

農地中間管理機構として農地を借受け、担い手に貸付ける事業を実施し、担い手への農地の集積及び集約化を図った。

項目	事業内容																					
農地の貸借	<p>○ 借入 1,031ha H26～累計 6,051ha</p> <p>○ 貸付 1,150ha H26～累計 6,008ha</p> <p>※H26～R1実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借入 (ha)</td> <td>457</td> <td>1,314</td> <td>1,034</td> <td>1,375</td> <td>1,030</td> <td>1,031</td> </tr> <tr> <td>貸付 (ha)</td> <td>363</td> <td>1,249</td> <td>1,050</td> <td>1,482</td> <td>1,124</td> <td>1,150</td> </tr> </tbody> </table> <p>(解約・変更含む)</p>	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	借入 (ha)	457	1,314	1,034	1,375	1,030	1,031	貸付 (ha)	363	1,249	1,050	1,482	1,124	1,150
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1																
借入 (ha)	457	1,314	1,034	1,375	1,030	1,031																
貸付 (ha)	363	1,249	1,050	1,482	1,124	1,150																
事業の推進	<p>① 改正農地バンク法による制度及び運用の改正等について関係機関等に周知を図り、農地バンク事業の活用の推進を図った。</p> <p>② 農地利用円滑化事業の農地バンク事業への統合一体化における権利関係の継承について、円滑な移行へ向けての支援を図った。</p> <p>③ 農業農村整備事業との連携強化を図り、農地バンク事業の活用の推進を図った。</p>																					
推進体制の強化	<p>① 各市町・各市町農地利用集積円滑化団体・各農業協同組合等と業務委託を締結し、市町等関係機関との連携を図った。</p> <p>② 農地利用最適化推進委員と機構との円滑な連携活動を確立し、機構事業の推進を図った。</p>																					
事業の啓発・普及	<p>① 新聞広告、ラジオCM、リーフレット配布等の広報活動により、農業者等への周知、理解促進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞広告 下野新聞・読売新聞・朝日新聞・毎日新聞 全国農業新聞・日本農業新聞</li> <li>・ラジオCM 栃木放送・エフエム栃木</li> <li>・リーフレット等 約10万部</li> </ul> <p>② 農地集積の円滑な推進のため、推進会議や研修会等を実施し、関係機関団体との情報の共有化等を図った。</p>																					

## 2 農地売買等事業（公1・1 農地利用集積に関する事業）

規模縮小を志向する農家等から農用地を買入れ、規模拡大を志向する認定農業者等に売渡す事業を実施し、農用地の利用集積を図った。

事業名		件数(件)	面積 (ha)	金額 (千円)
1 買 入	農地売買等支援事業	212	134.4	664,108
	公社営農地売買支援事業	38	11.6	63,859
	計	250	146.0	727,967
2 売 渡	農地売買等支援事業	183	130.4	640,582
	公社営農地売買支援事業	38	12.1	61,250
	計	221	142.5	701,832

※H26～R1 実績

年度		H26	H27	H28	H29	H30	R1
買入	件数 (件)	185	222	257	234	267	250
	面積 (ha)	96.5	108.1	124.4	128.7	141.9	146.0
	合計金額(千円)	593,487	599,554	635,849	631,180	672,972	727,967
	10a 単価(千円)	615	555	511	490	474	499
売渡	件数 (件)	185	197	238	227	225	221
	面積 (ha)	105.3	110.2	121.9	132.1	130.9	142.5
	合計金額(千円)	655,212	652,669	648,128	661,496	654,108	701,832

## II 畜産・農用地等基盤整備事業

生産性の高い農業経営の確立を図るため、県・市町等の関係機関や農業団体と連携し、畜産生産基盤の整備や環境整備等に関する次の事業を実施した。

### 【総括表】

(単位;名、千円、%)

事業名	地区名	事業期間	参加者	全体事業費	～H30	進捗率	R 元	R2～
畜産担い手育成総合整備事業	栃木塩那	H27～R3	10	1,391,000	544,329	39.1	151,370	695,301
	大田原・那須	H28～R3	17	810,000	299,201	36.9	105,877	404,922
	那須塩原	H29～R3	13	2,100,000	167,861	8.0	359,687	1,572,452
	新規事業地区計画策定		2				8,899	
	計		42	4,301,000	1,011,391	23.5	625,833	2,672,675

### 1 畜産担い手育成総合整備事業（公1・2 畜産・農用地等基盤整備事業）

安全安心な畜産物を安定的に供給するため、飼料生産基盤である草地や飼料畑を造成整備して自給率向上を図るとともに、担い手の経営基盤を強化するため、畜舎、堆肥舎、水質汚濁防止施設等を整備することで労働力、生産コストの低減、環境汚染防止に努めた。

また、県内の公共牧場より事業要望がある地域において、新規事業地区計画策定に取り組んだ。

地区名	予算区分	施工箇所	事業費(千円)	主な事業内容
栃木塩那 (H27～R3)	R 元	矢板市 那須烏山市 高根沢町 那珂川町	151,370	草地造成・整備 14.58ha 施設用地造成 0.59ha 牛舎の整備 1 棟
大田原・那須 (H28～R3)	H30 繰越	那須町	7,017	施設用地造成 1 式
	R 元	大田原市 那須町	98,860	草地造成・整備 17.63a 施設用地造成 0.09ha 牛舎の整備 1 棟 堆肥舎の整備 2 棟
那須塩原 (H29～R3)	H30 繰越	那須塩原市	104,662	牛舎の整備 3 棟 酪農設備一式
	R 元	那須塩原市	255,025	草地造成・整備 8.92ha 搾乳設備 2 式 堆肥舎 1 棟 水質汚濁防止施設 1 式
那須高原牧場	R 元	大田原市 那須町	8,899	新規事業地区計画策定
小 計			625,833	
事業推進費			58,205	
合 計			684,038	

## 公益目的事業 2

### Ⅲ 農業後継者育成確保事業

次代を担う優れた青年農業者等の育成・確保を図るため、県及び関係機関・団体等との連携のもとに、農業後継者育成確保基金事業及び青年農業者等育成センター事業を実施した。

#### 1 農業後継者育成確保基金事業（公2・1 自主事業）

青少年の就農促進と青年農業者の育成を図るため、県・市町・農業団体・農業者等の協力で造成された農業後継者育成基金の運用益により、次の事業を実施した。

##### (1) 国際化対応サポート事業

国際化に対応できる経営感覚に優れた農業者を育成するため、就農希望の青少年（高校生）や青年農業者等に対する海外派遣さらには長期研修を支援した。

事業名	事業内容
農業学生海外研修支援事業	国際化に対応可能な青年農業者を確保するため、農業高校生の海外研修事業を支援した。 ニュージーランド1名派遣（R1.7.7～7.18）
海外長期研修支援事業	農業先進国で優れた技術等を習得するため、概ね1年以上の農業研修の支援を予定していたが、研修予定者が台風19号の被災を受け、辞退したため該当者はいなかった。
海外短期派遣研修事業	国際化に対応できる経営感覚に優れた農業者を育成するため、農業先進国に研修団を派遣し、青年農業者の資質向上を図った。 東南アジア5名派遣 （マレーシア→シンガポール R1.11.25～11.30 5名）

##### (2) 担い手チャレンジ支援事業

青年農業者等を対象に、農業及び農家生活等に関する知識・技術の向上を図るための研究及びプロジェクト活動を支援した。

事業名	事業内容
経営発展活動支援事業	青年農業者（組織）が行う技術開発等の課題解決のための調査・研究活動を支援した。 3件（矢板市、那須塩原市、那須町）

(3) 組織活動サポート事業

青年農業者の仲間づくりや自己研鑽を図るため、自主的な組織活動を支援した。

事業名	事業内容
組織活動支援事業	青年農業者自らが組織し、積極的な活動を行っている組織を支援した。 栃木県青少年クラブ協議会、就農喚起ネットワーク
青年農業者地域貢献支援事業	青年農業者の組織が行う、地域に対する奉仕活動や活性化活動、子供たちへの農業の理解促進活動を支援した。 5市町青少年クラブ協議会、1地区青少年クラブ協議会
全国技術交流派遣事業	全国組織等が行う研修会へ青年農業者を派遣し、県外青年農業者との交流を行い、技術の向上及び経営者としての資質の向上を図った。 関東ブロック農村青少年クラブプロジェクト実績発表会 R1. 8. 7～8. 8 開催 25名派遣（埼玉県） 全国青年農業者会議 R2. 2. 26～2. 27 開催 14名派遣（東京都）の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(4) いきいき農業・農村情報発信事業

青年農業者が自信と誇りを持って農業に取り組むことができるよう、消費者との交流を通して、農業・農村の理解促進を図るための活動を支援した。

事業名	事業内容
青年農業者と消費者の交流促進支援事業	県内の青年農業者が一堂に会し、消費者に対し農業・農村の素晴らしさ等の情報を発信する活動の支援を予定していたが、台風19号の被災者が多かったため、支援予定のイベントは中止となった。

## 2 青年農業者等育成センター事業（公2・1自主事業）

本県農業の担い手となる幅広い就農希望者に対し、就農促進啓発、就農相談活動並びに就農支援情報（農地情報等）の収集、蓄積、情報提供を行うとともに、就農を目指す青年が研修を受ける期間（2年間）における農業次世代投資資金を交付した。

### (1) 就農支援事業

本県農業の担い手となる幅広い就農希望者を対象に、就農促進啓発や就農相談活動等を実施するとともに、就農支援情報（農地情報等）の収集、蓄積、情報提供等、就農促進を図る事業を展開した。

事業名	事業内容
就農促進啓発事業	<p>新規就農希望者に対する就農促進啓発を行うとともに就農相談活動、新規参入フォーラム、現地セミナー等を実施した。</p> <p>相談件数 249 件            相談会実施数 13 回（5、7、8、9、10、11、1、2、3 月実施）            新規参入フォーラム参加者 37 名（R1. 8. 29 開催）            新規参入現地セミナー参加者 20 名（R1. 12. 7 開催）</p>
就農サポート事業	<p>就農支援情報（農地情報等）の収集、蓄積、並びに情報提供を行った。</p> <p>就農情報数            県域情報<sup>※1</sup> 31 件            地域情報<sup>※2</sup> 42 件</p> <p>※1 県域情報：情報の登録について当該情報の内容に係る者の同意を得てる情報            ※2 地域情報：情報の登録について当該情報の内容に係る者の同意を得ていない情報</p>

### (2) 農業次世代人材投資事業（準備型）

次世代を担う農業者を確保・育成するため、就農に向けて県農業大学校などの教育機関や先進農家等において研修を受ける者に対して研修期間（2年以内）の生活安定に資する資金（年間150万円）を交付した。

交付対象者数 23 名（新規対象者 13 名、継続対象者 10 名）

### (3) 雇用就農者確保育成事業

新たに県内の農業法人等への雇用就農を希望する者が、本県で円滑かつ確実に就業して、定着できるよう、県内外から幅広く就業希望者を呼び込むとともに、雇用就農に向けた啓発や相談活動・法人現地見学会・情報発信等を通して雇用就農体制強化を支援した。

求人ブース出展法人延べ 6 社

法人見学ツアー R1. 10. 5 開催 12 名参加

R1. 11. 10 開催 7 名参加

#### <参考>

新規就農者数（令和元年5月1日から令和2年4月30日までに就農または雇用就農した者）

新規自営就農者 197 名（うち青年農業者 136 名）

新規雇用就農者 110 名（うち青年農業者 92 名）

合計 307 名（うち青年農業者 228 名）



## IV 農業農村活力支援事業

人が生きる上で最も重要な「食」と、これを支える「農業・農村」の大切さを一人でも多くの県民に理解してもらうとともに、農業者による生産・加工・販売の一体化による6次産業化や中山間地域における農地保全活動など、農業農村の活力向上を支援した。

### 1 食と農の理解促進事業

生命を維持し、健康であり続けるために必要な「食」と、これを支える「農業・農村」の大切さをより多くの県民に伝えるために以下の事業を行った。

#### (1) とちぎアグリプラザ管理運営事業（公2・1 自主事業）

県民の食料・農業・農村に対する理解を深め、これらの振興を図るため、その拠点となるとちぎアグリプラザを適切に管理・運営するとともに、県民に食と農の理解促進を図った。

- ① 施設概要 地上3階、延床面積1,804.72㎡
- ② 食と農に関する相談・情報提供
  - ・ アグリプラザ利用者9,994名（うち食と農の交流室利用者872名）
  - ・ 食と農に関する図書類や教材等の貸出 69件
  - ・ 各種イベントにおける食と農の理解促進活動とアグリプラザPR 5回

#### (2) 食と農の理解促進プロモーション事業（公2・1 自主事業）

県民に食と農の理解と関心を深めるための実践プログラム「つなごう！栃木の食と農実践講座」を開催し、講座で得た知識や情報を地域で広める「食と農の伝道師」を育成した。

また、各種情報の収集・提供、PR活動を実施したほか、食と農の理解促進のため本県産食材を知っていただく料理教室を企画した。

項目	事業内容
「つなごう！栃木の食と農実践講座」の開催	「食と農の伝道師」としての人材を育成する講座 9～2月（5回） 受講者延べ89名 「食と農の伝道師」の授与 8名
食と農の料理教室の開催	「伝えたいとちぎの食材いちごの魅力(料理教室)」の開催 R2.2.29に16組29名で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。
情報の収集・提供	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 栃木県農業の魅力伝える情報誌「TOWANO」への情報提供 2回(7月、3月)</li><li>・ パワフルアグリフェア等でのPR活動を実施 5回(7月、9月(2回)、11月、2月)</li></ul>

(3) とちぎ食育応援団活用促進事業（公2・2 受託事業）

食育を継続的に推進するため、未就学児等を対象とした「とちぎっ子食育出前講座」等へ食育応援団員を派遣したほか、団員の資質向上を目的とした研修会の開催や情報発信を行った。

項目	事業内容
とちぎっ子食育出前講座等への食育応援団の派遣	幼稚園・保育園等への応援団員の派遣 開催数 64 回 派遣応援団員数延べ 156 名 参加者数 2,714 名
活動力アップ研修会の開催	食育活動のための資質向上研修会の開催 1 回(8 月) 参加者 78 名
活動 P R 情報誌の作成・配布	幼稚園・保育園、応援団員、関係機関等への情報提供 1 回(3 月)
食育応援団員の募集・登録・名簿作成	募集、登録事務及び登録証の作成等 登録応援団員数 453 名（うち新規 15 名）

2 6次産業総合推進事業

農業・農村に存在する豊かな「地域資源」を活用し、農業者による生産・加工・販売の一体化や異業種との連携による6次産業（1次産業×2次産業×3次産業）の創出を促し、農業・農村の活力度向上を図る取組を支援した。

(1) 6次産業化サポートセンター運営事業（公2・2 受託事業）

農業の6次産業化を促進するため6次産業化サポートセンターとして、農業者等に対して実践アドバイザー等を派遣し、総合的なサポートを行った。

項目	事業内容
6次産業化への取組支援	6次産業化を推進するため、農業者等からの相談窓口を設置するとともに、情報の発信を行った。 また、6次産業化実践アドバイザーを派遣し、農業者等が行う生産から商品開発、事業化までを支援するとともに、総合化事業計画認定者のフォローアップを行った。 ・ サポートセンター窓口での相談件数：72 件 ・ アドバイザー派遣：延べ 83 回 ・ 総合化事業計画認定数：3 件（令和2年3月末現在 58 件）

(2) 6次産業化人材育成等事業（公2・2 受託事業）

6次産業化を実践する人材の育成を目的とした研修会等を開催した。

項目	事業内容
6次産業化を実践する人材育成	新たな農業を創造できる優れた経営感覚の農業者等を育成するため、インターンシップを含めた「6次産業化実践塾」を開催した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・人材育成研修会：全6日（受講者：延べ57名）</li><li>・インターンシップ研修：全3日4回（受講者：延べ20名）</li></ul>

(3) 6次産業化支援事業者バンク活用事業（公2・2 受託事業）

農業者が取り組む6次産業化商品の加工を受託することが可能な食品加工企業等をリスト化するとともに、6次産業化に意欲ある農業者への支援に活用した。

項目	事業内容
食品加工企業等の情報収集	関係機関、団体、関連企業等からの情報収集、データベース化等農産物受託加工企業へのアンケートの実施 2回 延べ361企業 データベース登録 51企業
事業者一覧の作成	加工委託が可能な食品加工企業のリスト活用を促進するリーフレットを作成した。

### 3 中山間地域活性化推進事業

中山間地域の多面的機能の保全を目的に、地域住民と都市住民等の協働によるボランティア活動を展開するとともに、若い世代に対し農地保全活動等を通じた自然豊かな農村の理解の促進を進めた。

(1) とちぎ夢大地応援団推進事業（公2・2 受託事業）

項目	事業内容
広報活動の実施	夢大地応援団ボランティア活動の情報収集と発信 <ul style="list-style-type: none"><li>・情報誌「はばたけ夢大地」作成配付：2回（12月、3月）</li></ul>
ボランティア活動実施支援	ボランティア活動を実施する地域の活動支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"><li>・推進地区：1地区実施（参加者 58名） ※荒天のため1地区中止</li><li>・継続地区：2地区実施（延べ参加者 125名） ※荒天等のため2地区中止</li></ul>
カレッジ活動の開催	若い世代を対象にした夢大地応援団カレッジ活動を開催した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・帝京大学学生を対象に3回実施（延べ参加者 69名）</li></ul>

## V とちぎ花センター管理運営等事業

本県における花の振興と、花とのふれあいによる心豊かな人づくりを目的に、県が栃木市に設置した「とちぎ花センター」において、指定管理者の指定に基づく管理運営業務及び付帯事業を実施した。

### 1 指定管理者の指定に基づく管理運営業務（公2・3指定管理事業）

#### (1) 施設管理事業

園内各施設の維持管理、植物の育成管理、入館料等の徴収等の業務を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策にあたっては、3月6日～3月24日までの19日間鑑賞大温室を休館するなど利用者の安全確保に努め、緊急事態宣言下で施設を管理した。

項目	施設の内容等
建 物	16棟 延べ床面積：6,392㎡ 鑑賞大温室（愛称：とちはなちゃんドーム）2,225㎡ 展示温室3棟、生産温室5棟、ホール棟 ほか
敷 地	面積 約3.1ha 大花壇 1,400㎡ ほか
入園・入館者実績	入園者数：276,601名（計画340,000名） 鑑賞大温室入館者数：29,533名（計画50,000名） うち有料入館者数：20,194名（計画21,500名）

#### (2) 花の生産振興事業

花の生産を推進するため、県産花きを用いたくらしの中における花飾りを提案し、家庭でできる花の利用を促進した。また、生産者組織と連携した「冬の鉢花展」や「洋らん展」等の企画展示や、本県で開発された「きらきら星」「るりおとめ」のPR展示と販売、後継者組織「花DAN」等生産者による即売会や育て方講習会など消費者との交流イベントを開催した。

令和2年3月19日に計画した花き生産現場見学ツアーは、新型コロナウイルスの感染防止のため、中止した。

#### (3) 花の普及促進事業

栃木県の花の拠点施設として花の普及を図るため、県産花きを使った企画展示や花の開花に合わせイベントを開催した。また、鑑賞大温室、バラ園、花壇では、植物とのふれあいの場を提供するとともに、人気のある「寄せ植えづくり」などの体験型教室の開催や親子を対象とした花育活動に取り組み、花による感動体験を提供した。

項目	業務内容
企画展の開催	鑑賞大温室では熱帯・亜熱帯植物及び砂漠地帯の植物の常設展示に加えて、第1企画展示室では年間9回のテーマ別展示を実施した。 ① R1.5.8～6.2 あじさい展 ② R1.6.4～7.15 花の動物園 ③ R1.7.17～8.25 あなたの知らない植物の世界展 ④ R1.8.31～10.27 世界の木の実・果物展 ⑤ R1.10.29～11.17 フラワーアート植物展 ⑥ R1.11.19～12.25 冬を彩る花展 ⑦ R2.1.2～2.1.19 早春の花展 ⑧ R2.1.21～2.24 とちぎの洋ラン展 ⑨ R2.3.1～4.7 洋ラン展
花壇の植栽	① 大花壇 年3回のデザイン花壇の植栽を実施した。 R1.5.13 ～ 7.7 トレニア・マリーゴールド・アゲラタム R1.7.15 ～ 10.14 センニチコウ・メランポジウム・ベゴニア R1.10.21 ～ R2.4.10 ビオラ・チューリップ ② 中小花壇・フラワータワー 多品目の季節の花苗を植栽するとともに、バラ園の管理を行った。 ※ 大花壇、園内花壇、バラ園は、ボランティア組織「とちはなクラブ」や「ローズクラブ」の他福祉施設の協力により定期的に管理を行った。
体験教室	① 園芸教室（25回開催 参加者474名） 寄せ植えづくりや家庭の日の親子体験教室など、子供から大人まで楽しめる体験型の教室を開催した。 ② とちはなカレッジ（受講者98名） 花の専門的知識を希望する方を対象に、「バラ講座」「ガーデニング講座」「ハーバリウム講座」等を開講し、花きの普及に努めた。
花育の取組	① 花育講座：親子で参加できる花育講座を8月を中心に5回開催した。 ② 地元小学生の招待：夏休み期間に栃木市及び佐野市の小学生を鑑賞大温室に招待し、植物に親しむきっかけづくりとした。 ③ 園芸相談：植物の栽培管理等についての相談に随時対応した。
イベント	季節に合わせて、年間6回のイベントを開催した。その中で、開園時間を延長して夜のイベントも開催した。 ① R1.5.11～6.9 ローズフェスタ ② R1.6.1～6.2 ホタルまつり（夜イベント） ③ R1.8.10～8.12 密林で肝試し（夜イベント） ④ R1.10.12～10.31 秋のフラワーフェスティバル (R1.10.26～10.27) ハロウィンキャンドルナイト（夜イベント） ⑤ R1.12.7～12.25 フラワークリスマス ⑥ R2.3.16～4.10 ヒスイカズラフェスタ R2.2.29～3.1当センターを会場として準備した「花と苺のフェスティバル」は、新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。

#### (4) 受託事業

次世代国産花き産業確立推進事業として、栃木市内の小・中学校や老人福祉施設に鉢花を配布し花や緑を楽しむ機会を提供した。また、イベント等で県産花きを使用した飾花業務を行い、県産花きのPRを行った。

## 2 附帯事業（花き類販売等事業）（収1事業 物品販売事業）

とちぎ花センターにおいて、花き販売所「とちはなちゃんのお花屋さん」及び食堂「はなカフェ」の運営を、公社の自主事業として実施した。

## VI なかがわ水遊園管理運営等事業

那珂川の豊かな水と緑に親しみ、水生生物とふれあう場を提供することにより、その沿川地域の自然と文化についての県民の理解を深めるとともに、都市と農村との交流の促進を図ることを目的に、県が大田原市に設置した「栃木県なかがわ水遊園」において、指定管理者の指定に基づく管理運営業務及び附帯事業を実施した。

### 1 指定管理者の指定に基づく管理運営業務（公2・3 指定管理事業）

#### (1) 施設管理事業

園内各施設の維持管理、植栽管理等の管理業務を実施した。園内及び館内において、四季折々の草花の植栽により来園者に対して、くつろぎと癒しの提供に努めた。

また、10月の台風被害、2月からの新型コロナウイルス感染拡大防止対策にあたっては、休園、休館対応など利用者の安全確保及び非常事態下での施設維持管理に努めた。

項目	施設の内容等
建 物	おもしろ魚館（愛称：フィッシュパル） 展示ゾーン：延べ床面積 4,500 m <sup>2</sup> : 総水量 約 600 t : 水槽数 48 基 体験交流ゾーン：延べ床面積 1,500 m <sup>2</sup> おさかな研究室、味わい工房、創作工房等
公 園	面積：約 25ha 施設：公園サービスステーション（味処ゆづかみ）、 お魚ふれあいステーション、芝生広場、水の広場等
おもしろ魚館入館者実績	入 館 者 数：271,148 名（計画 270,000 名） うち有料入館者数：178,166 名（計画 187,600 名）

#### (2) 広報活動事業

本園の展示企画や体験講座等各種イベント開催情報を、メディア、行政・教育機関等に配信するほか、SNS等の活用によるリアルタイムの情報発信や集客施設でのPR活動を積極的に展開した。新たにネットメディアを活用した有料WEB広告を集客シーズンに活用することで新規利用者開拓による集客増加に努めた。

項目	事業内容
広報配布物	ポスター・チラシ・リーフレット・ミニカレンダー・体験講座メニュー等の配布
広報媒体	有料活用：新聞・テレビ・ラジオ・LINE・WEB広告・野立看板 無料活用：ホームページ・フェイスブック・メールマガジン・新聞・テレビ・ラジオ・各種雑誌・市町広報誌

広報活動	<p>自治体等が主催する主なイベントへの出展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県庁PRコーナー展示(4月、7月、10月、11月、3月)</li> <li>・ 道の駅きつれがわりリニューアル2周年記念イベント(4月)</li> <li>・ 全国ご当地キャラクター大集合in大田原&amp;与一くん誕生会(4月)</li> <li>・ ワンダフルとちぎ2019(5月)</li> <li>・ 県民の日記念イベント(6月)</li> <li>・ 黒磯駅前交流施設「くるる」オープン記念イベント(7月)</li> <li>・ 栃木県農業試験場公開デー(8月)</li> <li>・ 黒磯駅前交流施設「くるる」オヤトコマルシェ(9月)</li> <li>・ とちぎ動物愛護フェスティバル(9月)</li> <li>・ 栃木SCホームゲームイベント(10月)</li> <li>・ 与一の里大田原市産業文化祭(11月)</li> <li>・ フェスタinパルティ2019(11月)</li> <li>・ ECOテック&amp;ライブとちぎ2018(11月)</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画展PR広報活動(7月、11月、2月)</li> </ul>
------	--

### (3) 展示活動事業

水族館の展示テーマである「那珂川から世界の川、そしてあこがれの海へ」に基づき、栃木県を代表する清流「那珂川」と世界を代表する「アマゾン川」の二つの川に注目した展示を行った。また、新たに水産試験場で開発した三倍体サクラマス常設展示に追加するほか、自然環境やニーズを反映しテーマを設定した企画展等を実施した。

項目	事業内容
常設展示	<p>「那珂川から世界の川、そしてあこがれの海へ」 那珂川の水生生物、県内の水生生物、日本の希少魚、熱帯雨林・珊瑚礁の魚等 (約300種、約20,000尾) 主な展示生物追加・変更等 R1. 5. 25～ 栃木の研究最前線 (全雌三倍体サクラマス)</p>
企画展	<p>H31. 3. 8～R1. 5. 8 春の企画展「平成魚うてんヒストリー」 R1. 7. 12～9. 1 夏の企画展「メダカ・メダカ・メダカ」 R1. 11. 22～R2. 1. 19 冬の企画展「ライトアクアリオ～スノーファンタジア」 R2. 3. 25～ 春の企画展「私立危険生物学園」</p>
特別展示	<p>アマゾン調査隊写真展(7月) R1. 7. 17～ 9. 2 カラフルアマガエル R1. 8. 10～9. 1 超巨大アメリカザリガニ R1. 9. 27～10. 31 ハロウィン特別展示 R1. 12. 28～R2. 1. 13 干支生物(ミッキーマウスプラティ)展示 R2. 1. 7～3. 1 魚がいちごパンツ!?(マンジュウイシモチ) ※いちご王国栃木プロモーション協賛</p>
解説プログラム	<p>バックヤードツアー</p> <p>水族館内の仕組みや働き等について来館者に説明した。 (学校等68団体3,608名、一般652名) 開催：土・日・祝日・夏休み ほか</p>

	フロアガイド	R2. 1. 28～2/26の平日に飼育係が展示フロアで一般利用者215名を対象に展示生物等に関する解説を行った。
主なイベント	R1. 6. 8、9、15 県民の日特別イベント R1. 7. 14、15 アクアリウムフェア R1. 7. 26～8. 24 ナイトアクアリウム (4回) R1. 9. 27～10. 31 すいゆうえんハロウィンパーティー R1. 10. 27 ハロウィンナイトビュー R1. 12. 1～12. 25 サンタの水中散歩 R1. 12. 21 クリスマスナイトビュー R2. 1. 7～3. 1 ストロベリー&バレンタインイベント R2. 1. 25～3. 3 水遊園のひなまつり R2. 2. 9 サケの放流会	

#### (4) 体験交流事業

都市と農村の交流促進を目的に地域の文化や資源などについて、来園者が「見て、触れて、食べて、感じて」を体感できる各種体験講座や水族館と連動した体験事業を実施した。

項目	事業内容	体験者数
おさかな研究室	魚や水生生物等の観察、実験講座 メニュー：川にすむ生物を調べよう等、さかな博士に挑戦！ ○×クイズ、チリメンモンスターをさがせ！、ザリガニとともにだちになろう、自由研究レスキュー等	6,026名
味わい工房	地域の農産物を活用した調理加工講座 メニュー：ソーセージ、かしわもち、草餅、花巻寿司、田舎まんじゅう、ピザ、クッキー作り等	3,040名
創作工房	地域の工芸、クラフト等講座 メニュー：竹細工、木工細工、和紙工芸、まゆクラフト、フラワーアレンジメント、絵手紙等	5,715名
お魚ふれあいステーション	魚のつかみどり、釣り体験、釣り教室 メニュー：つかみどり、マスエサ釣り、五目釣り、ザリガニ釣り、ルアー・フライ釣り	釣り池 12,754名 つかみどり 2,677名
体験受講者数合計 30,212名		
その他の事業	R1. 6. 16、29 鮎試食会 (鮎飯、鮎ジェラート) R1. 8. 10 メダカ試食会 R1. 10. 1～27 写生コンクール作品展 R1. 11. 17 釣り大会 R1. 1. 28～2. 16 水遊園思い出写真コンテスト写真展	



(5) 地域及び教育機関等との連携事業

那珂川沿川地域の自治体・関連施設、地域住民等と連携し、地域資源の紹介や集客イベントの企画及び協力をとおして地場産業・観光の振興等地域活性化への貢献に努めた。

また、水生生物調査や保護活動に協力するほか、学校の実施する「マイチャレンジ」等の就業体験や教職の「社会体験等研修」を受け入れるなど教育活動の支援を行なった。

項目	事業内容
地域連携事業	H31. 4. 7 那珂川さくらまつり H31. 4. 28 アユの放流会&那珂川クリーンアップ大作戦 R1. 6. 30 ナカマルシェ R1. 7. 14、15 じもフェス R1. 9. 8 那珂川大感謝祭 R1. 9. 15 すいゆうえんこだわりマルシェ R1. 9. 23 なかがわ里山ポタリング R1. 9. 28 せせらぎの舞 R1. 10. 5、11/24 婚活イベント R1. 10. 6 トヨタソーシャルフェス（那珂川清掃活動）
調査研究活動	ミヤコタナゴ保全関連事業（4回）、農地・水保全水生生物調査支援（9回）、外来生物駆除活動（3回）、那須塩原市関連活動（鍋掛イトヨ保護活動、魚類部会など）（10回）
教育機関との連携事業	① 出張授業 6回 ② 職場体験ほかキャリア教育支援 19校 35名 （中学校 8校 21名、高等学校 2校 5名、専門学校 2校 2名、大学 4校 4名）
その他連携事業	① 栃木県水産試験場との連携事業 ・全雌3倍体サクラマス展示、研究成果展示 ほか ②（公社）日本動物園水族館協会関連 関東東北・北海道ブロック園館長会議 H30. 4. 16、17 AtoZ（アクアとズー） ※県内動物園・水族館3園館連携事業 ・飼育係体験ツアー 2回 ・小学校出張授業 1回 FIGHT9※福島、茨城、群馬、栃木の動物園・水族館9園館連携事業 ・周遊スタンプラリー H31. 3. 9～R1. 11. 30 ・PRキャンペーン 1回（なかがわ水遊園） ③ その他 生物提供 8件、生物保護 6件、標本貸出 4件、写真提供 5件

2 附帯事業（物品販売等事業）（収1事業 物品販売事業）

栃木県なかがわ水遊園におけるおもしろ魚館のショップ及び喫茶コーナー、公園内食堂「味処ゆづかみ」の運営を、公社の自主事業として実施した。

## 参考資料 1 主たる会議等

年月日	主要事項
平成31(2019)年	
4月10日 ～ 3月23日	とちぎ夢大地応援団ボランティア活動（全3回）・カレッジ活動（全3回）
4月16日 ～ 4月17日	(公社)日本動物園水族館協会関東東北・北海道ブロック園館長会議
4月24日	公社事業説明会
令和元(2019)年	
5月24日 ～ 3月19日	とちぎっ子食育出前講座（全64回）
5月26日 ～ 3月 3日	新規就農相談会inとちぎ（全6回）
6月 6日	第29回理事会（H30年度決算等）
6月20日 , 2月20日	なかがわ水遊園事業推進懇談会
6月25日	農地中間管理事業評価委員会
6月26日	第19回評議員会（H30年度決算、役員改選等）
6月26日	第30回理事会【決議の省略】（業務執行理事の選定）
7月6日 ～ 1月25日	新・農業人フェア等県外就農相談会（全7回）
7月20日 ～ 2月23日	とちぎアグリプラザPR活動（パワフルアグリフェア他出展）
7月31日 , 12月16日	農業次世代人材投資事業審査会（全2回）
9月18日 ～ 2月13日	「つなごう！栃木の食と農実践講座」（全5回）
9月26日 ～ 2月21日	「とちぎ6次産業化実践塾」（全9日 10回）
10月3日	農地中間管理事業推進会議
10月 5日 , 11月10日	とちぎの農業法人現地見学ツアー（全2回）
11月17日 , 12月2日	公社専任職員採用試験（技術職1名採用）
11月25日 ～ 11月30日	青年農業者海外派遣研修（マレーシア・シンガポール）
令和2(2020)年	
3月9日	指定管理運営に係るとちぎ花センター第三者評価会議
3月11日	第31回理事会（R2年度予算案等）
3月24日	第20回評議員会【決議の省略】（理事の選任）
3月30日	第32回理事会【決議の省略】（業務執行理事の選定）

参考資料2 評議員・役員・職員等調

1 評議員

区 分	令和2年3月31日現在（名）	平成31年3月31日現在（名）
評 議 員	10	10

2 役員

区 分	令和2年3月31日（名）	平成31年3月31日現在（名）	
理 事	常 勤	4	3
	非 常 勤	8	8
	計	12	11
監 事	2	2	
合 計	14	13	

3 職員

区 分	令和2年3月31日現在（名）			平成31年3月31日現在（名）		
	職員	パート・臨時	計	職員	パート・臨時	計
事 務 局 長	1	0	1	1	0	1
総 務 部	5	1	6	5	1	6
農 地 集 積 推 進 部	12	1	13	13	1	14
農 政 対 策 部	6(2)	1	7(2)	7(2)	1	8(2)
事 業 部	6	0	6	5	0	5
とちぎ花センター	16	8	24	17	9	26
栃木県なかがわ水遊園	37	7	44	38	5	43
合 計	83(2)	18	101(2)	86(2)	17	103(2)

(注) ( ) 内は県派遣職員で内数

## 事業報告附属明細書

令和元年度事業報告においては、「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものはない。